

# 命の今レは

臓器移植法改正を問う

■中■

悲劇は突然訪れた。6年前の9月1日朝。空知管内南幌町の中学3年生の白倉美紗さん(当時14)は学校祭の準備で家を20分早く出て、自宅近くでトラックにはねられた。「心肺停止で病院に運ばれました」知らせを受けて母裕美子さん(39)と父博幸さん(38)は、事故現場に残る娘の赤い靴に胸を詰まらせ、病院に駆けつけた。脳挫傷と外傷性ショック。医師は「脳がやられている。意識は戻らない」と告げた。脳死判定はないが、両親は今、脳死に近か

## 脳死 家族の葛藤



# 「提供」よりみとりたい

ったのではと思う。ベッドの娘は顔に小さな傷があるだけ。穏やかな表情と温かな体。「起きて！ 起きてよ！」。家族は泣き

叫び続けたが、1時間弱で命の炎は消えた。今、父母は思う。あのパニック状態で、医師から「脳死は人の死です。臓器提供も人工呼吸器を使って

にこって無意味な時間ではない」と指摘する。複雑な思い 大人の脳死でも、家族のみとりに葛藤が

たら…。提供は拒否できるといっても、娘の体を奪われる怒りが爆発するだろう。大切な「みとり」の時間を失うのではないか。

### 2年生存も

脳死判定後1週間で心停止に至るという医学的知見が通用しない。生きていれば今年が成人式。合成で振り袖を着せた肖像写真を作って祝った白倉美紗さんの両親。14歳で不慮の死を遂げた娘を思う気持ちは少しも変わらない

子供の脳死 臓器移植法の改正案では、4案中3案が、脳死の子供からの臓器移植を可能にする内容を含む。ただ、体が小さい子供は物理的に脳死判定が難しいほか、①虐待された子供が紛れ込む恐れがある②民法で自己決定権が認められない15歳未満の意思表示は正当か一などの問題点が指摘されている。2008年の日本小児救急学会の調査では、「小児の脳死を死と受け入れられる」とした医師が過半数を占めたが、「脳死となった小児の遺族の社会的精神的ケアは、今の体制で可能か」との質問には、75%が「不十分」「全くできない」と回答している。

大阪の枚方市市民病院が過去の121例を文献で調べたところ、脳死判定した15歳未満の小児のうち、90日以上心臓が動き続けた症例が2割あった。同病院の田辺卓也・小児科主任部長は「子供の脳死判定は難しく、心停止まで時間がかかったり、自発呼吸が戻る例もある。それでも、心停止までの時間をみとり」とらえれば、親子

「臓器提供にご協力を」「子供の命を助けてください」。

国内で移植が広がらない中、海外での移植を目指し、街頭で募金を求める人たちは絶えない。娘を14歳で失った白倉裕美子さんは、

それを求めるたびに思う。「命を助けたい思いは、事故や急病で肉親を失った家族も同じ。臓器移植の裏にある、人の死と家族の悲しみを忘れないで」

「命を助けたい思いは、事故や急病で肉親を失った家族も同じ。臓器移植の裏にある、人の死と家族の悲しみを忘れないで」

「命を助けたい思いは、事故や急病で肉親を失った家族も同じ。臓器移植の裏にある、人の死と家族の悲しみを忘れないで」

「命を助けたい思いは、事故や急病で肉親を失った家族も同じ。臓器移植の裏にある、人の死と家族の悲しみを忘れないで」

「命を助けたい思いは、事故や急病で肉親を失った家族も同じ。臓器移植の裏にある、人の死と家族の悲しみを忘れないで」

「命を助けたい思いは、事故や急病で肉親を失った家族も同じ。臓器移植の裏にある、人の死と家族の悲しみを忘れないで」

「命を助けたい思いは、事故や急病で肉親を失った家族も同じ。臓器移植の裏にある、人の死と家族の悲しみを忘れないで」

「命を助けたい思いは、事故や急病で肉親を失った家族も同じ。臓器移植の裏にある、人の死と家族の悲しみを忘れないで」

「命を助けたい思いは、事故や急病で肉親を失った家族も同じ。臓器移植の裏にある、人の死と家族の悲しみを忘れないで」

「命を助けたい思いは、事故や急病で肉親を失った家族も同じ。臓器移植の裏にある、人の死と家族の悲しみを忘れないで」